

もくぞうしゃかによらいざぞう
「木造釈迦如来坐像」 町指定有形文化財（彫刻）

所在地：大字南条 所有者：個人 指定：昭和55年10月15日

この像は檜材寄木造りで、螺髪を彫出し、肉髻朱・白毫ともに水晶で、玉眼を嵌入し、肉身に漆箔を施しています。両肘をまげ、左手は与願印を右手は施無畏印を結び、左足を内に右足を外にして結跏趺座しています。螺髪は大粒で高く尖り、髪際一字でまた頭部・軀部ともに奥行き深く、衣文の彫りも深く、かつ稜を高く残すなど銘文はありませんが鎌倉時代の制作と考えられます。

文政4年（1821）の赤池氏由緒書上控によると、この像は坂木冠着山天福寺（天台宗）本尊でした。同寺は村上氏の代々の祈願寺として崇敬が篤かったのですが、天文22年（1553）4月、葛尾落城の際、館と共に寺も焼失しました。この時本像は難を免れ、南条の社家赤池勘解由左衛門尉が本像を守り、南条の山の辺に一字の堂を建立し、安置したものとされます。天正10（1582）、義清の子村上景国が海津城将となった際、海津へ奉遷しましたが、慶長3年（1598）、会津へ国替えの時また赤池氏に預け同地に赴いたので、同家が代々守護してきました。

法量 像高 52.0 cm

頂～顎 18.2 cm	髪際～顎 13.0 cm	面幅 10.0 cm	面奥 13.7 cm
肩張り 25.2 cm	胸厚 15.2 cm	臂張り 31.3 cm	膝張り 41.3 cm
膝高 8.0 cm	坐奥 33.0 cm		

